

さまざまな価値観を受け入れる陸別町は、 大きな夢を描ける場所

暑いときも、寒いときもある。でも、 自然の中で働けるのがいい



のと、私たちのやりたい農業を応援してく

住した理由は、「自然の中で子育てができる の研修を修めて独立を果たした。陸別に移 陸別に移住して酪農研修を開始し、3年間

作業は分担され、お互いに進み具合を確認しながら自分の役割を 果たす。仲野さんは、伐採された木を、重機を巧みに操り規定の長 さに切断する。切り出された木の状態を見極め、どのサイズに切断 するかを判断する。作業現場は、山奥になることもある。仕事はきつ いこともあるが、仲野さんは「自然の中で働くのは、やりがいがありま

い町だと思います」と話していた。 人が手助けしてくれることもあり 陸別町では、公営住宅に住む。「都合が合

陸別町で、家族と新たな暮らしを始

トする制度が充実している

とする農業と向き合う

一。新規

時間がゆつくりと流れる場所で、

めたのが佐藤賢三さん(38)だ。周囲の

大きな夢への

第一歩を踏み出した。 人々に支えられながら、

陸別町の街中から離れた緑に囲まれた場

る。そんな一人が、仲野哲史さん(25) 町に移住し、山で働く若い人たちが 携わる人たちの高齢化が進むが、陸別 在も町の主産業だ。全国的に林業に するころから、林業が盛んになり、 陸別町は、明治時代に鉄道が開通

活用などを学び卒業。8年前、佐々木林業 で、森林の役割や樹木の育成技術、木材の 仲野さんは、帯広農業高校森林科学科

への就職を機に陸別町に移り住んだ。 林業は、高校で学ぶ中で興味が湧いて 佐々木林業に就職

ています。生活していく中で会社や町内会の うときは町内会の行事に参加するようにし 住みや

の自分がある。新規就農したい人がいたら、 「いろいろあったけれど、後は良くなるだけ」 地震による大規模停電が起きた。それでも 雨、さらに7月の大雨。9月には、胆振東部 まされた。2018年の3月に季節外れの 「地域の方に支えてもらえたからこそ

と、佐藤さんは前向きだ。

陸別町で酪農をしたい…と思ったら(助成制度の一部を紹介)

「営農実習」というプランを整備している。将来の営農に向け下準備と は6カ月間~3年間。

たちは、前向きに受け入れてくれたそう。 自治体もある中、陸別町の農協や役場の人 間も時間もかかる有機農法に難色を示す た有機農法の「バイオダイナミック農法」。手 とするのが、ルドルフ・シュタイナーが提唱し る環境が整っていた」から。佐藤さんが理想

独立してからの1年は、とかく災害に悩

営農実習する方への助成

営農実習奨励金月額15万円(3年以内、23歳以上45歳未満

農業経営開始奨励金 年額600万円(開始年のみ、23歳以上45歳

・農業経営のために賃借した農用地等の賃貸料、及び借り入れた農 業関係制度資金の借入金償還利子に対する補助、取得した農用地、 農業用施設・機械等に係わる固定資産税相当額に対する補助

●陸別町での新規就農に関する問い合わせ

陸別町農林推進協議会(事務局:陸別町役場産業振興課) ☎0156·27·2141(代表)

詳しくは「陸別 新規就農情報」で検索

右から佐藤賢三さん、妻の語謙さん、長女の雨音さん。抱っこされているのは次女の慈雨ちゃん。語謙さんは「子どもたちに"本物"を見せ

妻の語謙さん、娘の雨音さんと慈雨ちゃんの な場所で佐藤さんは、2017年10月から 所に、佐藤さんの牧場はあった。こののどか

佐藤さんは新潟県の出身。2





が大変なこともありますが、自然の中で働

れば、夏はものすごく暑いときもあって、

厳寒期でも山に入る。「しばれるときも

くのは好きですね。やりがいがあります」と

全に効率良く行っている。

の作業の進み具合などを意識しながら、安 ど、役割が分かれ連携して行う。互いに相手 切るかを判断する。作業は数人で現場に行 りそろえる。木の状態を見極め、どの長さに 機を使い、切り出した木を規定の長さに切 ました」と話す。現在の仕事は、山に入り、重

き、伐採する人、倒された木をまとめる

どこまでも続く森林。林業は、明治の開拓時代から陸別町の主産業だ。山を手入れし、何十年もかけて育てた木を伐り出して 製材などに加工し出荷する。伐採したところに苗木を植える。これが100年以上にわたり繰り返されている。

